

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	グローバルに活躍するコンサルティング会社の企業研究
報告者	国際経営学部国際経営学科 1 年 氏名 加藤 真帆
調査日	2023 年 11 月 3 日(金) 14:00~16:00
調査先	株式会社 グローバルジャパンコンサルティング 株式会社 グローバルジャパンネットワーク 代表 熊本浩明 氏 Vikas Kumar Bafna 氏
担当教員身分・氏名	教授 野間口隆朗
担当 CVS	北口ジュリオ愛学 布尾和也 高橋侑吾
授業科目/学部企画名	訪問調査「企業訪問」
参加学生数(学年)	1 年生 12 名、2 年生 4 名
調査趣旨・目的	グローバルジャパンコンサルティングの業務内容について知り、設立背景や日本企業のグローバル進出の現状を理解する。
調査結果	<p>今回のグローバルジャパンコンサルティングの企業訪問では、前半に熊本様と Vikas 様のバックグラウンドとグローバルジャパンコンサルティングが行っている事業内容についてご講演いただき、後半では学生 6 人から資生堂のインド進出についてのコンサルティングのプレゼンテーションを行ったうえで、フィードバックをいただき、その後質疑応答の時間が設けられた。</p> <p>グローバルジャパンコンサルティングの設立者で、過去には住友銀行勤務、公認会計士の資格を取られたのちに PwC(プライスウォーターハウスクーパース)にて海外の企業のコンサルティングを 200 社以上担当された経歴を持たれる熊本浩明様と、インドの弁護士の資格を持ち、IT 事業の責任者でもある Vikas 様からお話をいただいた。</p> <p>グローバルジャパンコンサルティングは、子会社である IT 会社のグローバルジャパンネットワークとともに、主に「IT×コンサルティング」の分野で活動されており、インドを中心に海外に拠点を 2 つ以上を持つ企業(製造業や飲食業)に対し、独自開発された「INSIGHT GLOBAL」というグローバル経営管理ツールを使い、海外拠点からの経営情報を連携させるプラットフォームを作り、データに基づいたリアルなコミュニケーションを可能にしてきた。背景としては、海外に子会社を持つ企業は本社との連携がうまくいかない事例が多く、こういった不正や横領の事態を防ぐための安全安心なグローバル経営を行うために取り組んでいる。</p> <p>私は今回のお二人のご講演を通して、グローバルに進出していく上で、現地のローカルな要素を取り入れることの大切さと日本の企業の強みを学んだ。特に、熊本様からは熊本様のバックグラウンドと独立にいたった経緯、インドへの進出についてご教授いただいたが、インドは中国に次ぎこれから発展していく国であること、世界的企業の雇用者数もインド人が多いとのことで、インドには多大なる可能性があることが分かった。私自身、社会起業家にも興味があるので、身の周りに感じる不便さから起業しようと思えばできるということ</p> <p>ことが分かり、少し企業に対する壁が下がった気がした。一方、Vikas 様からはインド人の視点から見た日本企業の良さとして、綿蜜に計画を立て、プロセスに従う、時間厳守、win-win のビジネスモデル、commit less performmore という期待をはるかに超えるスタンスが日本企業の強みだとおっしゃっており、普段日本では心掛けずに当たり前だと感じていることでも、海外では当たり前ではないということを再認識させられた。また、中盤では</p>

学生を代表し、学生 6 人から先月インドに進出を果たした、高級層向けの資生堂のコスメブランドの一つであるナーズに着目し、「資生堂のインド進出についてのコンサルティング」を行った。そのフィードバックとして、ナーズの高級志向のブランドの競争相手との対策を考えるべきとのアドバイスをいただいたので、これから事業に着目する際は進出先と日本、過去の進出事例だけでなく、これから進出してくる競争相手の可能性を踏まえ、事業案を作成する必要があると感じた。また、学生へのアドバイスとしてスキルを掛け合わせることで希少性が出るため、自分の強みを生かした分野のスペシャリティを伸ばし、特技の分野である英語×環境×IT で希少性を生み出し、世界に通用する人材になりたいと感じた。

※調査時の写真

